様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	社会系コース／町田　哲

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

〝私は、これまでの授業実践でも、知識の伝授だけではなく、歴史を考える視座の確立を目指してきた。そうした視座を持ち、思考できることこそが「高度専門職業人」たる教員には求められている。ただ、ともすれば、「具体的な素材」から歴史や時代の特徴を捉えようとする方向性がやや弱く、また学生が主体的に「考える」比重がやや小さかった。そこで、今年度は、日本史学特論Ⅱや初等中等教科教育実践Ⅱ（学部）、歴史学研究Ⅱ（大学院）などを通じて、担当教員として以下の3点を取り組みの目標としたい。
①授業内容…できるだけ「地域の具体的な歴史素材」をもとに、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点を培い、日本史の展開を「考える」授業内容を構築する。
②授業方法…歴史を「考える」ための素材を理解する力を身につけていくため、演習形式を重視し、加味しながら講義する。
③成績評価…単に歴史的事象をどれだけ学び得たかという点だけでなく、その理解をいかに伝えることができるかという観点も組み込んだあり方を模索していく。〟

2．点検・評価

①授業内容…日本史学特論Ⅱでは、近世日本を対象としながら、できるだけ「地域の具体的な歴史素材」をもとに、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点を培い、日本史の展開を「考える」授業内容を構築するよう努力した。
②授業方法…歴史を「考える」ための素材を理解する力を身につけていくため、とくに歴史学研究Ⅱでは、演習形式を重視し、山村と地域に関する論文を読み議論しながら理解を深める形態をとった。また、歴史学演習Ⅱでは、論文だけでなく、実際に地域に遺された史料を読み込みながら、歴史を読み解く醍醐味を味わうことができるように努力した。
③成績評価…単に歴史的事象をどれだけ学び得たかという点だけでなく、その理解をいかに伝えることができるかという観点も組み込んだあり方を模索していくために、レポートでの表現形態についても教授し、内容かつ表現方法の両方において重視した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるよう授業を進める。具体的には、地域で誠実に生きる人々の営みが歴史を動かしていることの理解が得られるよう努力する。
②担当講義（日本史）の充実を図る。その際、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点、この2つを養うようにする。
③学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じる。

2．点検・評価

①社会科教育で重要な、地域史の方法と実践について、理解を深められるよう授業を進めている。特に歴史学研究Ⅱでは、近年の山村および地域史に関わる好論文をとりあげることで、、地域で誠実に生きる人々の営みが歴史を動かしていることの理解が得られるようにした。
②担当講義のうち、とくに日本史学特論Ⅱでは、通史的視点と、その時代の特徴を多角的に捉えるような視点、この2つを養うように努力し、あわせて、徳島における事例をふんだんに取り上げることで、地域から歴史を見る視点を育成するようにした。
③学生の自主・自立を尊重しながら、学生の進路・悩み等の相談に随時応じた。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①昨年度まで進めてきた科学研究費補助金（若手研究B）「近世阿波における山村の地域特性に関する構造論的研究―生業・流通・社会構造―」（3年間）をふまえ、森林資源という視点から、新たに阿波の山村社会の歴史的研究を推進する。
②昨年度に引き続いて徳島県から受託予定の、四国八十八カ所札所寺院の文化財詳細調査を進め、その歴史的解明を目指す。
③近世後期の阿波の牛馬皮流通について、検討を深める。

2．点検・評価

①昨年度まで進めてきた科学研究費補助金（若手研究B）「近世阿波における山村の地域特性に関する構造論的研究―生業・流通・社会構造―」（3年間）をふまえ、森林資源という視点から、新たに阿波の山村社会の歴史的研究を推進するために計画した「近世阿波における森林資源と地域社会に関する構造論的研究」が採択された（研究代表者　町田 哲　研究期間：2013年4月1日～2016年3月31日（予定）　研究分野：日本史　研究種目：基盤研究(C)　研究機関：鳴門教育大学）。初年度の今年は計画にそって、すでに旧木頭村役場文書の調査等を実施し、また2つの学会報告を実施した。
②昨年度に引き続いて徳島県から、四国八十八カ所札所寺院の文化財詳細調査を受託し、今年度は4番札所大日寺の調査を実施し、その調査成果をふまえ1月にはその報告書を徳島県教育委員会に提出できた。
③近世後期の阿波の牛馬皮流通について検討を深め、その成果の一端を「近世後期徳島藩における牛馬皮の流通と取締」（『部落問題研究』206、2013年8月30日、2-48頁）として論文発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①社会系コース、人文・社会系教育部の一員として、所定の各種会議に参加し、職務を遂行する。
②社会系コースの大学院（長期履修生）の新規担任として、職務を遂行する。

2. 点検・評価

①社会系コース、人文・社会系教育部の一員として、学部教務委員会に参加し、職務を遂行した。
②社会系コースの大学院（長期履修生）の新規担任としては、学修キャリアノートの点検・指導を実施した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①徳島県教育委員会からの受託を予定している四国八十八カ所寺院の文化財詳細調査をすすめ、その史料的価値の証明を果たすことで、その成果を広く社会に還元していく。
②鳴門史学会や歴史資料保全ネットワーク等における研究および実践活動を通じて、地域との人的、学術的な交流を図る。
③附属小中学校の実習・研究会等にできるだけ参加・支援する。

2. 点検・評価

①徳島県から、四国八十八カ所札所寺院の文化財詳細調査を受託し、今年度は4番札所大日寺の調査を実施した。調査成果をふまえ1月には報告書を徳島県教育委員会に提出することができた。また徳島で開催された第6回全国歴史の道会議『阿波遍路道』（10月19日阿南市夢ホール）では、鳴門教育大学における遍路に関する教育実践および研究活動を報告した。
②鳴門史学会・代表や歴史資料保全ネットワーク徳島・事務局長として、地域史に関する研究および実践活動を通じて、地域との人的、学術的な交流を図っている。前者については、11月に研究大会「廻船問屋山西家からみた阿波・撫養の歴史」を実施し、後者については「『歴史資料保全ネットワーク・徳島』の設立」（『歴史評論』759、2013年7月、74－75頁）を発表し、また12月にシンポジウムを開催することができた。
③附属小中学校の研究会等については、①の用事と重なり参加できなかったが、実習については授業研究会等について見学・指導することで、支援した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

徳島県から、四国八十八カ所札所寺院の文化財詳細調査を受託し、今年度は4番札所大日寺の調査を実施した。調査成果をふまえ1月には報告書を徳島県教育委員会に提出することができた。また徳島で開催された第6回全国歴史の道会議『阿波遍路道』（10月19日阿南市夢ホール）では、鳴門教育大学における遍路に関する教育実践および研究活動を報告し、全国の関係者にその内容を伝えることができた。